

— 調理師になるつと思つたきつかけは何ですか？

井上 八海高校の福祉科で介護の分野を学んでいて、実習に行つたときに福祉施設の食事形態に興味を持ち、それがきっかけで調理師を目指すようになりました。それまで私は、福祉施設の食事といえば栄養面のみ考慮したもので、少し味気ないものだ、という印象を持っていました。しかし、高校時代に実習に行つた福祉施設では、栄養面も考慮しながらも見た目にもこだわったものを作っていました。そのことを知り、私も作ってみたいと思い集団調理（主に病院や福祉施設など集団給食のために多人数の食事を調理すること）を学び、調理師になりました。

— リターンするまでの不安はありましたか？

井上 高校卒業と同時に、友達の多くが新潟市や首都圏に進学したので、私のようにリターンする友達がいるか少し不安でした。しかし、実際は地元就職した友達や私と同じようにリターン就職している友達が多くて安心しました。家族は新潟市で就職すると思っていたようで、リターンを決めたときはとても驚いていましたが、とても喜んでくれました。リターン後は実家で生活しているので、困ったことがあっても家族の力を借りることができます、とても助かっています。

— 実家の生活だと具体的にどんなところが助かっていますか？

井上 特に食事面では助けてもらっています。仕事柄、日勤早番（7時～16時）、日勤遅番（13時～22時）、夜勤（22時～7時）と三交代制で不規則な勤務が続くこともあります。体調を崩さないように食生活には気を使わなければなりません。

— 一人暮らしの時はどうしてもコンビニのお弁当だったり、外食が多くなってしまったりして偏った食生活になりがちでした

したが、実家では野菜もしっかり食べることができ、とても

調理管理の面でとても助かっていますね。

調理から 介護の現場へ

— 現在はどのような仕事を担当していますか？

井上 今は最初に就職したこの杜ではなく、関連施設の健康俱乐部つどいで介護の仕事をしています。集団調理という仕事をやりがいがあり好きでしたが、利用者様と直接接することができる介護業務そのものに興味を持つようになります。現在は食事や入浴・排せつなど、仕事内容は多岐に渡りますが、ご利用者様が快適に生活できるように頑張っています。

調理の仕事をしていた時は、利用者様がどんな顔で食べているのか、おいしいと思ってくれているのかを見ること

ができるのですが、介護の仕事に移つてからは、おい

しそうに食べている利用者様を直に見ることができ、とても

嬉しいです。

ありのまま、
常に笑顔で

— 介護の仕事を行う上で特に心がけていることは何ですか？

井上 一番は常に笑顔で接するということですね。コミュニケーションを取ることがもともと好きなので、私自身もありのまま、利用者様との会話を楽ししながら仕事をしています。普段はあまり笑わない人が私との会話の中で笑ってくれたときや食事や入浴などの介助をしていてありがとうと言つても喜んだときはとても嬉しいですね。

また利用者様は施設内で過ごす時間がほとんどなので、利用者様とそのご家族が楽しめるイベントを企画したり、季節のお花やクリスマスツリー、門松などを飾つたりして、施設での生活を楽しんでもらえるように心がけています。

